

## 『私を創ってくれた3つの作品』

スペースデザイン部会員 杉田 文哉

空に手をかざして掌のシルエットに目をやったり、また指の間から見える雲の動きに見入ったりした経験はあるかと思います。

視点を変えることでその空間の印象は変わるものです。

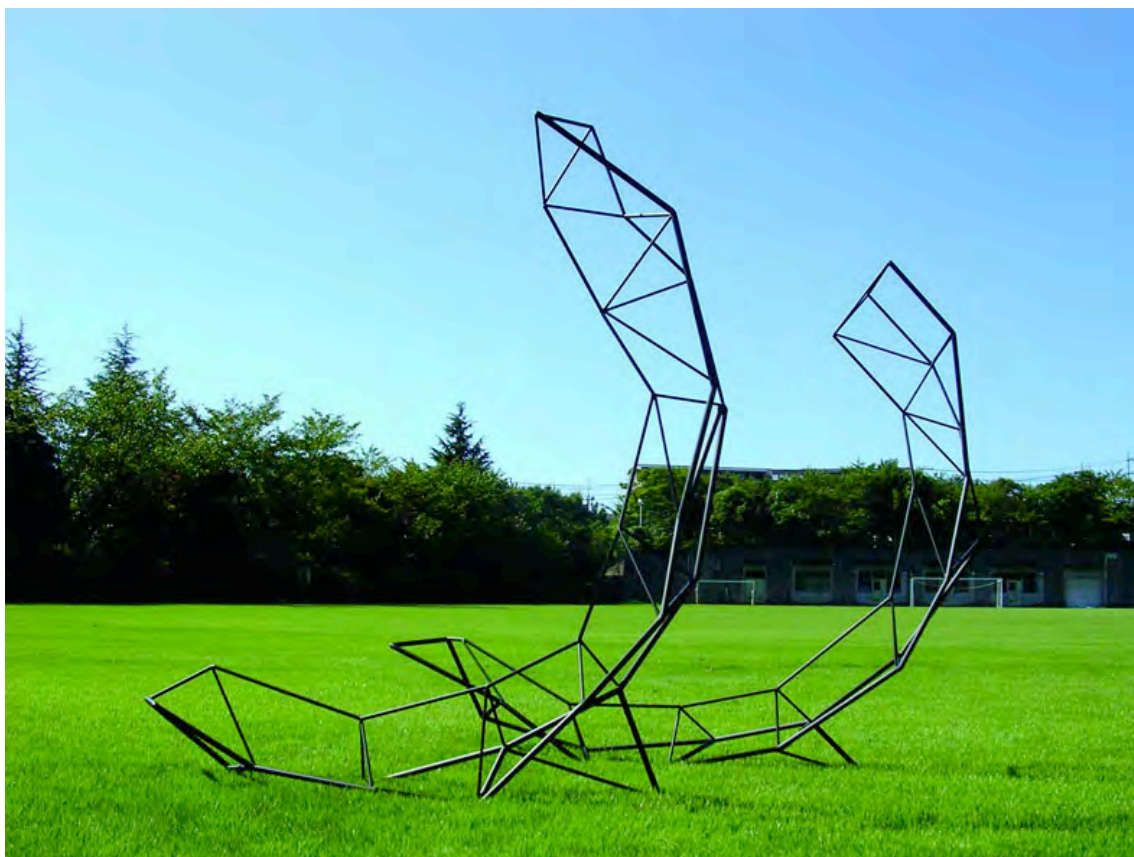
立体の持つ量感を出来る限り取り去り、空間での在り方や関係性を追求した結果、線による表現に行き着きました。線の重なりやその方向性、さらに密度の変化に様々なイメージを重ね合わせる。

動きのある線の構成はその影と同化することで錯視効果が生まれ、魅力的な表情を作り出します。

アルミパイプを使って、線による構成作品をつくり続けています。

今回の企画をいただき、過去の作品を振り返るいい機会になりました。

共通するコンセプトはあるものの、その時々で随分表現が変わってきています。



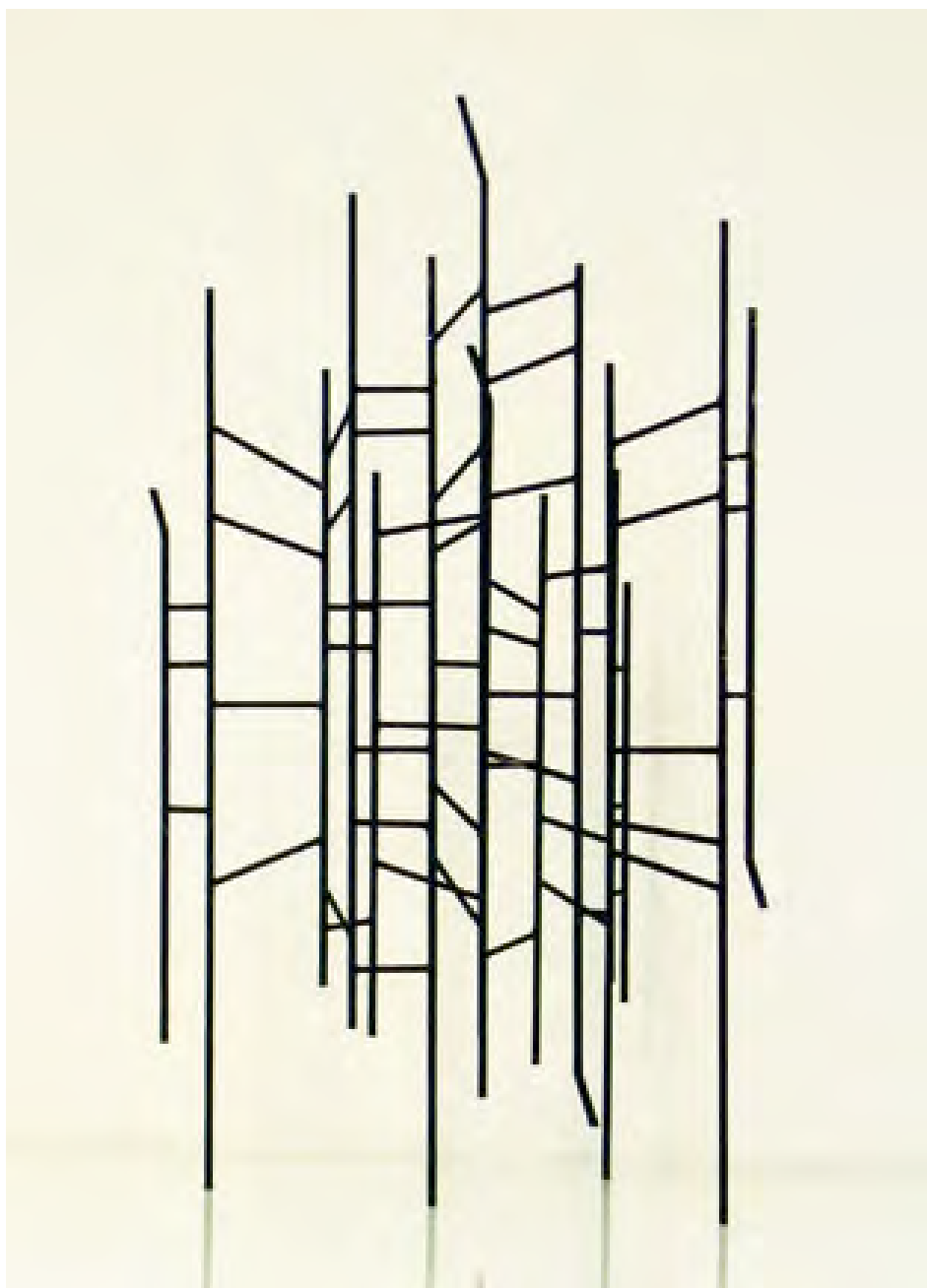
「ゆらぎ -間- 」

サイズ：H1800×W1800×D1200

材質：アルミパイプ・エポキシ樹脂

The 67 th Exhibition of SHINSEISAKU 2003 SPEACE DESIGNS

建築中の鉄筋や梁の軸組が好きで、さらにその線で切り取られた空に空間の魅力を感じて、フレームワークによるモデリングを繰り返し行っていた頃の作品です



「ゆらぎ' 12 -focus -」

サイズ：H2160×W1200×D1200

材質：アルミパイプ・エポキシ樹脂

The 76 th Exhibition of SHINSEISAKU 2012 SPEACE DESIGNS

量感や質感を出来る限り削ぎ落とし、線の構成によるハーモニーで空間構成を試みた作品です。写真は1／6スケールモデルです。



「Fluctuation 2017」

サイズ：H3000×W1500×D300

材質：アルミパイプ・エポキシ樹脂

The 81 th Exhibition of SHINSEISAKU 2017 SPEACE DESIGNS

線の構成による壁面作品。

目線を限定することで、空間に浮かぶ線の動きや影との関係から生じる錯視効果により様々な表情を作り出します。



- 1980 東京造形大学  
ヴィジュアルデザイン学科 卒業  
新制作展 初入選
- 1986 新作家賞 受賞 (同`94年 受賞)
- 1996 [ONOJIN 思考 - スペースデザインの方法と実験 -]  
(グループ展・パルテノン多摩)
- 1999 新制作協会スペースデザイン部 会員推挙
- 2002 [Art Work Art Walk1.2.3.]  
(グループ展・銀座 月光荘)
- 2004 [NEGA⇔POSI 展]  
(グループ展・新橋 MAKII MASARU FINEARTS)
- 2010 [空間の彩展 II]  
(グループ展・銀座 画廊るたん)
- 2016 [公募団体ベストセレクション美術 2016]  
(東京都美術館)
- 2021 [ちょっと小さなスペースデザイン展]  
(グループ展・建築会館ギャラリー)